

地域への愛着を基盤とした地域と学校の連携による学校安全事業

鳥羽市×SEEDS Asia 松原・亀岡視察研修 アンケートまとめ

令和7（2025）年8月21日

参加者・回答者の構成

所属	参加者	回答者 一日目8/19	回答者 二日目8/20
学校運営協議会関係者 (25.0%)	6	6	6
学校教職員（内9名管理職） (54.2%)	13	13	13
行政関係者（教育委員会3名・防災危機管理室2名） (20.8%)	5	5	5
合計	24	24	24

参加者アンケートは Google Form または紙ベースのいずれかを選択して各自回答し、研修日の当日を原則に提出。回答率は両日共に100%。

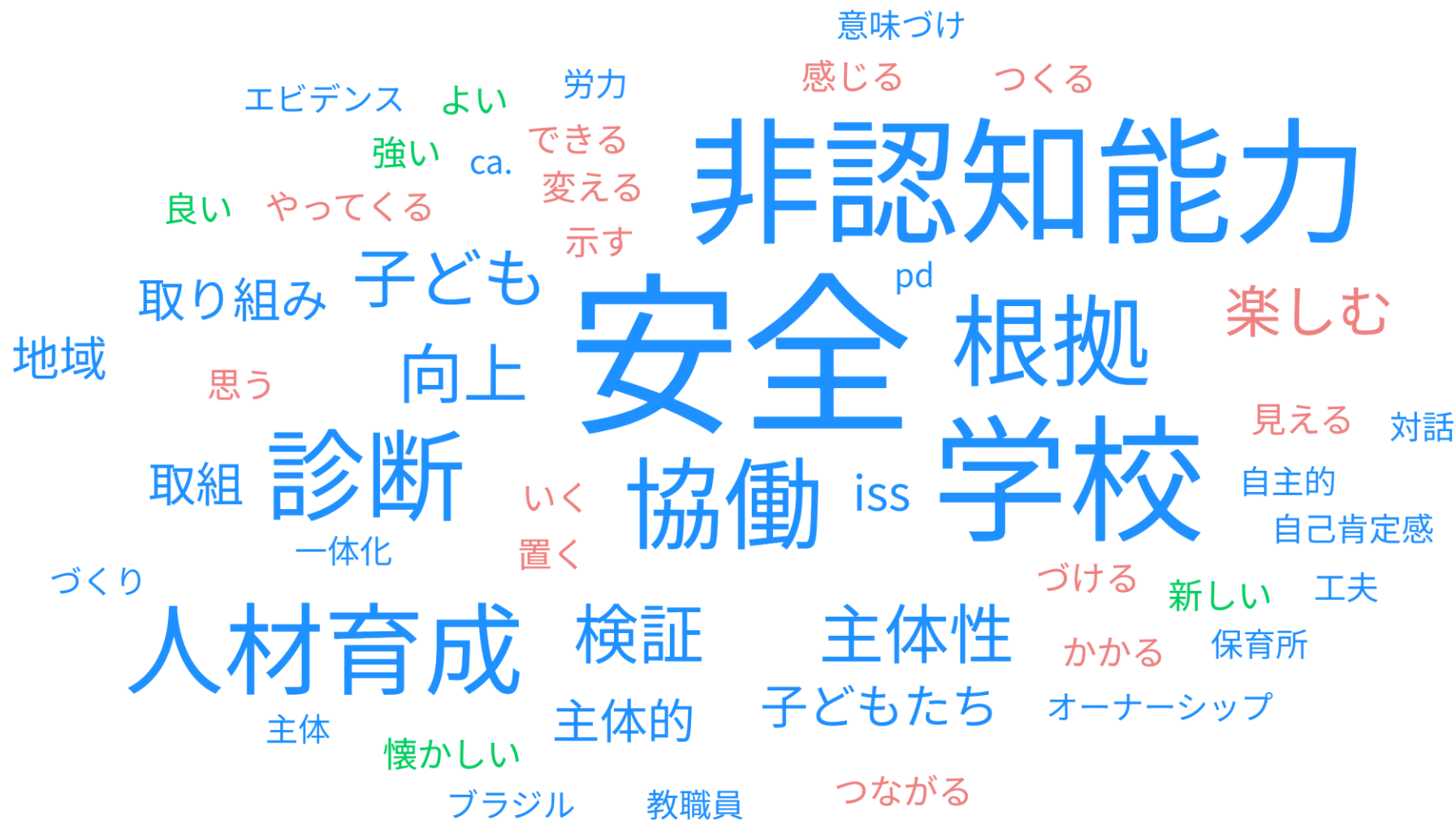
本結果共有資料では、定性的な回答を以下の方法で整理・可視化している。

- ①ワードクラウド：頻出語をスコア化し可視化
- ②分類・色分け表示：記載内容をカテゴリーごとに整理
- ③原文リスト：参考用として自由記述リストをそのまま掲載
（なお、1日目・2日目ともオンライン回答者のみ「その他感想」欄で自由記述を設けた）

松原市



【松原】本日の研修で得たこと・気づいたことを示すキーワード



【松原】本日の研修で得たこと・気づいたことを示すキーワード分類

学校・地域の一体化と協働

- 学校と地域の一体化【CS】
- 協働（子ども・教職員・保育所・地域）
- 課題の見える化
- 今あること・ものを活用する
- 対話

安全・安心と検証

- 安全診断（問題把握、根拠をデータで示す）【CS】
- 安心・安全な学校づくり
- 検証に強い意識を置く
- 安全検証、S+PDCA
- 学校の中ですることとはいえ、労力がかかるように感じ工夫が必要だと思います【CS】

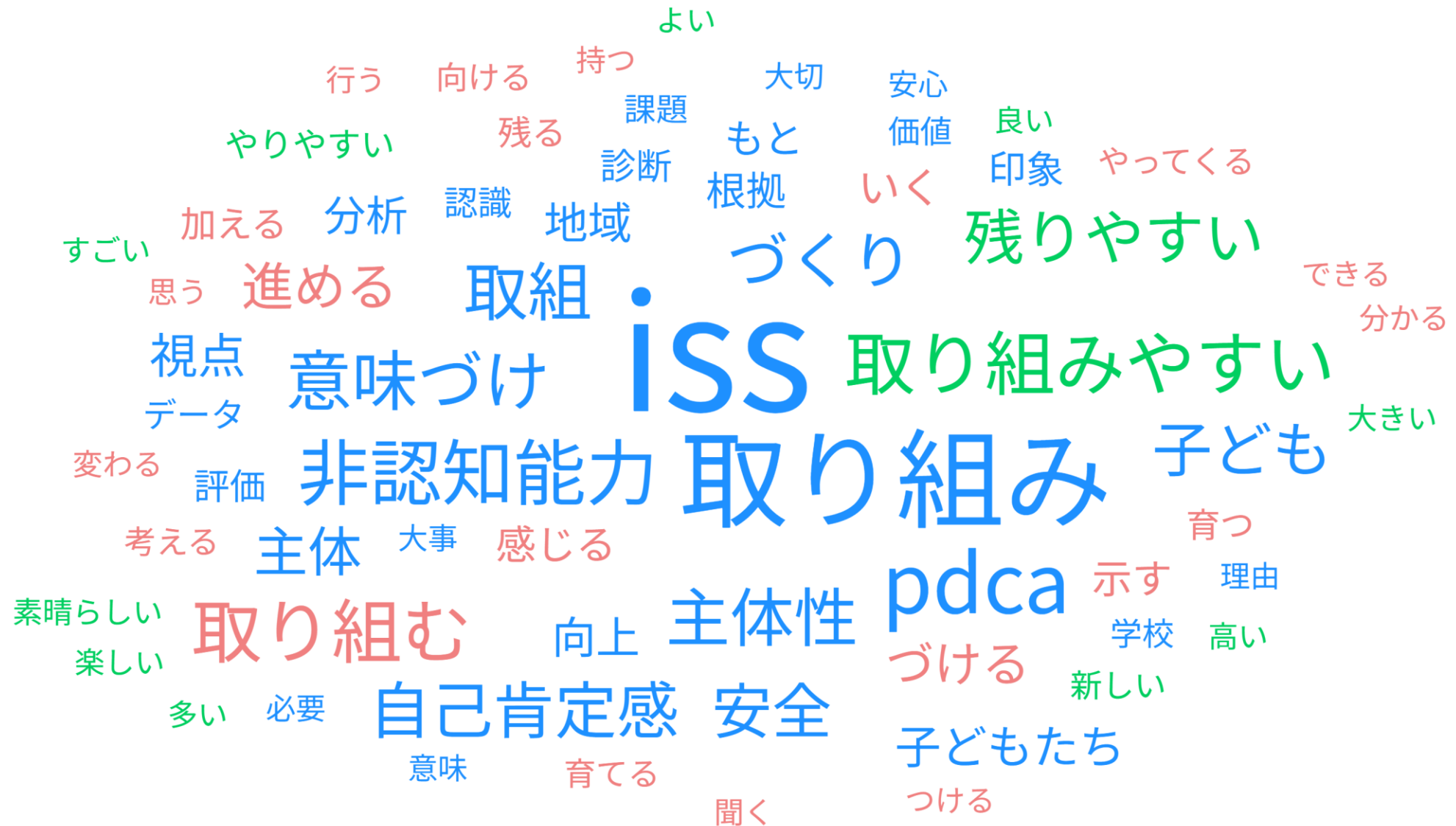
子どもの学び・主体性・人材育成

- 子どもたちが自分から学校を変えていく姿
- 主体性・オーナーシップ
- 自己肯定感の向上/自主的・主体的な取り組み（行動・思考）/人材育成【CS】
- ISSは人材育成
- 非認知能力・学びの質
- 非認知能力の向上と効果検証【CS】
- 自分ごと化知識の整理
- 新しい視点・チャレンジ・楽しさ・継続
- 子どもが主体的に活動を楽しんで【CS】

価値づけ・エビデンス

- これまでの取組の意味づけ・価値づけ
- 根拠（エビデンスベース）
- 自分たちの取組が学校を良くしているという自信
- 目的、根拠、心、つながる、つくる

【松原】本日の研修で新たな知識・認識・印象に残ったこととしてどのようなことがありましたか？



【松原】本日の研修で新たな知識・認識・印象に残ったこととしてどのようなことがありますか？

地域との連携・協働

- ・ 地域との連携と、課題発見のための調査や工夫が必要と感じた【CS】。
- ・ 子供達と先生と地域で色んな問題を取り組んで、良い事を持続する事が大事ななあ【CS】。
- ・ 地域の方々と共に学校を動かしているという意識を地域学校共にも持つことが、ISSを通し非常に進んでいたところです。
- ・ ISSに取り組むことで、自分ごととして安全安心な学校・地域づくりを考えるようになる。
- ・ 市全体で取り組んでいることで、縦や横の繋がりができ、また継続した取組となっている。
- ・ 子どもが主体となって安全に対する取り組みを進めていく必要があるということが印象に残った。授業や学校生活だけでなく、地域を巻き込んだ取り組みにおいても児童生徒の主体性が重要だと感じた。

既存の取組の再評価と価値づけ

- ・ 今やっていることにどんな意味があるのか考えること。今ある取り組みを再評価していくこと。できることをやっていきたいと思いました。
- ・ PDCAのサイクルに「See」を加えること。なんとなく実施してきたこと⇒なぜやるのか？やってどうなるのかを掘り下げる⇒関連する取り組みを評価し教育課程に当てはめる⇒非認知能力向上へ【CS】
- ・ 今まで何となく続けていた取り組みを、教師も子どもも、何のためにやるのかを考えること、子どもたちがどう受け止めているかを検証することが大切だと感じた。
- ・ 認識が変わったのは、普段の事柄に理由をつけるということです。去年もやってたからーという理由でなんとなく行うのではなく、はっきりとした理由が言語化できないもの、他に手立てがあり、そちらの方が有用だと感じたものを採用するなど改革も必要だと認識しました。
- ・ 今までやってきたことを例年通りという視点で進めてきた事が多いなと感じた。なんのために、なんで、そして、どうなったという再評価をしてなかったと反省した。
- ・ ISSの取組は、新しいことをやるのではなく今あるもの、今やっていることの動機を考えたり、『何のためにやるのか？目的は何なのか？』と新たな価値づけをしていくというお話が大変印象的でした。
- ・ 「ISS」については全てが新たな知識だった。これまでやってきたことの意味や価値を改めて考え直すことや、「なぜ？」という根拠やデータを示すことなど、関わるすべての人たちの「考える力」が育まれる事業だと感じながら聞かせていただいた。
- ・ 新しいことをはじめようとするとハードルが高いけれど、今までの取り組みを再評価したり意味づけようとするのであれば、取り組みやすいと思いました。毎年恒例化しているものもあるので、大事なことだと思った【CS】
- ・ 挨拶運動のような小さな取り組みが、学校全体の雰囲気や児童生徒の関係づくりに大きな影響を与えるということが分かった。そしてISSの認証を受けることにより、多岐に渡る取り組みをやりやすくなるということが、分かりました。
- ・ 新しい取組には負担が大きいと尻込みしがちな私ですが、ISSは新しい視点をもたらすという説明を聞いて新鮮に感じました【CS】。
- ・ 今ある活動を8つの視点で見直すこと。

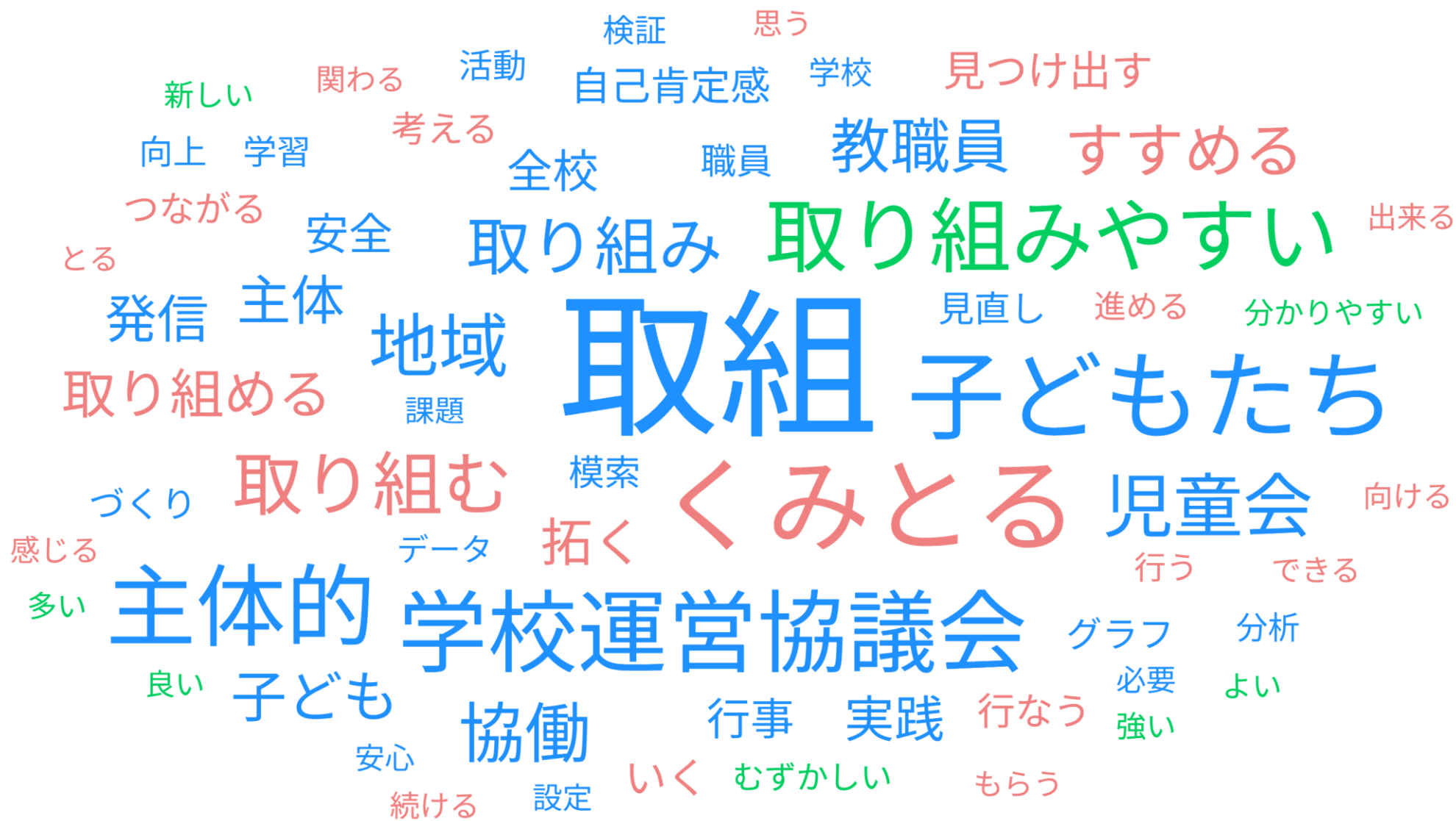
子どもの主体性・人材育成

- ・ 子ども主体で進めることで自己肯定感や言語化能力など様々なチカラを養うことができる。
- ・ 子ども主体性。子どもが中心となって、主体的に取り組める制度・仕組み作り【CS】。
- ・ 自己肯定感をあげられる他者より差別化できる枠組み(制度・今回はISS)への取り組みの重要性。子どもたち自身が、自分ごととしてとらえるやり方を学んでいくこと、それを発表することで自信をつけていくことなど、学力だけでは計れない力が育っていく取り組みだと思った【CS】。
- ・ 自己肯定感をあげられる他者より差別化できる枠組み(制度・今回はISS)への取り組みの重要性。
- ・ 自分事としての安心安全。物事の意味を考えて、行動すること。
- ・ ISSの取り組みで、自己肯定感がすごく上がったことが印象的でした【CS】。
- ・ エビデンスも大事ですが、やっぱり子どもとの丁寧な対話が大事だと思います。
- ・ 課題について話し合う時にも、行事について目的意識を持たせる時にも児童との対話をもとによりよいものにしていくことで児童の成功体験が増えていくと思いました。
- ・ 考える力と発信する力が問題解決力となる。
- ・ ISSの実践の積み重ねで授業での子どもの活躍も変わる。やることの意義も自分たちで考えるようになる。
- ・ ISSに取り組むことで子どもが育っていく様子が、とても楽しそうに語られていて、印象に残りやすかったです。
- ・ 自発的にやり抜く力をどの子どもたちも育てていくこと
- ・ ISSに関して熟知し、中心に進めるリーダーの力⇒学校をまとめる力
- ・ 一人ひとりの人生につながる日認知能力を育てていくことや⇒（ISS）この経験が自分事として捉えるもとなり、将来の様々な場面で生かせるのではないかな。

検証・エビデンスと改善

- ・ 検証することの大切さを認識しました。
- ・ 安全診断でデータ化することで、課題を見えてくる【CS】。
- ・ エビデンスも大事ですが、やっぱり子どもとの丁寧な対話が大事だと思います。課題について話し合う時にも、行事について目的意識を持たせる時にも児童との対話をもとによりよいものにしていくことで児童の成功体験が増えていくと思いました。
- ・ S +PDCAが特に印象に残った。これまでは、PDCAを意識していたが、そこにSを加えることで本当に必要なことにアプローチできることが分かった。また、データ（根拠）をしっかりと示し、子どもも教員も共通意識のもと進めていくことが大切だと感じた。
- ・ 学校として、データをもとに教師と子どもが課題を共有して課題解決に向けて考えて実践する様子が印象に残りました。
- ・ 現状把握が大切なこと。「安全診断」し、現状を分析して目標設定をしていく。「なぜやるのか」という視点を常に忘れない。子どもの意見や思いを確認しながら進めていく。学校づくり→校区づくり→町づくりという視点を持つ【CS】。
- ・ 安全診断から根拠を持たせ、その結果と分析のもと児童会が主体となった取り組みは参加になった。さらに、10年間の取り組みの成果として、非認知能力が年々向上している事は、素晴らしい取り組みだと感じました。

【松原】自分の学校・地域で実践したい・検討したいと思ったこと



【松原】自分の学校・地域で実践したい・検討したいと思ったこと

1. 現状分析・安全診断・データ活用

- ・現状分析が重要と感じました【CS】。
- ・現状を子どもと一緒に分析したいと思います。児童会はもちろん、各委員会も一緒に考えていければ、全校での取組として推進できると思います。
- ・できるところから、データをとり、子どもたちに提示、検証させ、主体的に改善のためにどう取り組むかを考え、発表する機会をつくりたい。職員全員で共通認識をいかにかはかるかが課題。
- ・課題の取組状況をグラフなどを使い分かりやすく、児童生徒に説明出来るようにしたいと思った。
- ・現在、行なっている行事についてもう一度見直しをする。一度に新しいことを全てするのではなく自分の学校や地域でできることを模索する。また、行事や学習を行う前には、S+PDCAサイクルを意識する。
- ・安全・安心な学校づくりに向けて、安全診断を本校の担当者とともに進め、子どもが主体的に取り組めるようにしていきたい。また、子どもの自己肯定感を向上させるためにも、子どもが学んだ事等を発信できる場の設定を職員と共に模索していきたい。
- ・データに基づく分析や検証は社会科をはじめ授業でも必要な能力であり、子どもが主体となって取り組みやすいのではないかと感じた。そのためには日頃からデータやグラフの読み取りに慣れさせる必要があるため、より長期的な計画で実践していく必要があると感じた。
- ・安全診断をしてデータ化することで、根拠、具体性を持って、子どもが主体的に取り組めるようにしたい。

取組の再評価・意味づけ・改善

- ・児童会が取り組んでいる全校遊びについて、なぜしているのか立ち止まって考えてみる機会を設けた。また、地域については地域のよさを取り入れることをさらにやっていきたいと思いました。
- ・毎年同じだからとならずに何のためにやるかの必要性を教職員間でも確認し、子どもたちとも話し合って進めること。
- ・自分の学校で実施したいことは、まず行事の見直し、授業改善を行いたいと思います。地域で実践したいことは、学校の活動を呼びかけ、地域の方と協働することです。そこから、安全体制を整えていきたいです。最後に検討したいことは、自分たちの学校で行われているガイド学習を今日の活動取り組みで説明されていたものに寄せて見るように検討し、自己肯定感の涵養や主体的に学習に取り組む態度を育成したいと思いました。
- ・今ある学校行事・活動を意味づけてすすめていくこと。
- ・毎年続けている行事や活動があるので、再評価などしていきたい。

子どもの主体性・発信・非認知能力

- ・子どもたちからの自発的な提案や発信。
- ・子どもたちに主体的に考えられるテーマを与えて、考え、アウトプットしてもらい、それを地域全体で認められる事業を行いたい【CS】。
- ・子どもとともに考えて、学校や地域をよりよくしていく取組を広げていきたい。これまでの取組を活かしながら、課題解決に向けて進むことができる活動を実践したいです。
- ・子どもたち自身から何かを発信する取り組みがもっと出来れば良いと思った。生徒会の取り組みなど「先輩らもやっていたから」ではなく、「なぜ今年度もそれをするのか」をしっかりと考えて発信出来るようになっていくと良いなと思う。
- ・非認知能力の育成。昨年度よりエデュパスを導入し、実践にとりかかっているが、ISSの考えをミックスしてやれないかと思った。
- ・なんのために取り組むのか、どんな効果があるのか、すべての教育活動に子どもたちとともに考え、意味づけを行いたい。また、学校の取組を保護者や地域に子ども自身が発信する場を多く設定し、子どもたちに自信をつけたい。
- ・子どもの主体的な取組に学校運営協議会として積極的に関わっていく。子どもと意見交流をし、共に考えていく場を設定していく。「安心・安全な学校づくり」という部分での連携を考えていく【CS】。
- ・自分やその周りのこととして、主体的に考えてもらえるように工夫すること。
- ・子どもたちの実践や学びをもっと地域の人へ発信⇒大人の意識を変えたい⇒地域への愛着が強くなる⇒未来の答志島を切り拓く力がつく。学校運営協議会の運営を学校まかせにせず、もっと関わっていききたい【CS】。

地域との連携・協働

- ・色んな職業の人も入ってもらいたい【CS】。
- ・自分の学校で実施したいことは、まず行事の見直し、授業改善を行いたいと思います。地域で実践したいことは、学校の活動を呼びかけ、地域の方と協働することです。そこから、安全体制を整えていきたいです。
- ・事項の安心・安全の課題を子どもたちと共に見つけ出して解決策を考えること。職員と子どもの対話は生み出すことは容易だが、地域の方々の想いをくみとる方法がむずかしい。教職員と地域の多様な方とのコミュニケーション力の向上。
- ・地域の人とはわりと協力的で子ども、地域、先生など、協働していく基盤はあると思うので、それを生かしながらすめていく。

今、教育委員会で指導主事として、様々な研修を行ったり、市としての取組を考えたりしていく中で、今すでにやっていることも含めてその目的や価値を確認して、自分自身も納得して進めていくことが大切だと感じた。今日の教えていただいた中にもあった言葉で『それが子どもたちの安全安心につながるなら誰も否定しない』がまさにそうで、子どもたちのためにつながるとなればその取組は続けていきたいと思うし、積極的に行動しようと思う。ただ時間は無限にあるわけではないので、何が今鳥羽市として必要なのか考えて取組をすすめていきたい。

自分の学校・地域で実践したい・検討したいと思ったこと（記入リストまま）

- ・ 現状分析が重要と感じました。
- ・ 色んな職業の人も入ってもらいたい
- ・ 現状を子どもと一緒に分析したいと思います。児童会はもちろん、各委員会も一緒に考えていければ、全校での取組として推進できると思います。
- ・ 児童会が取り組んでいる全校遊びについて、なぜしているのか立ち止まって考えてみる機会を設けたい。また、地域については地域のよさを取り入れることをさらにやっていきたいと思いました。
- ・ 毎年同じだからとならずに何のためにやるかの必要性を教職員間でも確認し、子どもたちとも話し合って進めること
- ・ できるところから、データを取り、子どもたちに提示、検証させ、主体的に改善のためにどう取り組むかを考え、発表する機会をつくりたい。職員全員で共通認識をいかにはかるかが課題。
- ・ 課題の取組状況をグラフなどを使い分かりやすく、児童生徒に説明出来るようにしたいと思った。
- ・ 現在、行なっている行事についてもう一度見直しをする。一度に新しいことを全でするのではなく自分の学校や地域でできることを模索する。また、行事や学習を行う前には、S+PDCAサイクルを意識する。
- ・ 子どもたちからの自発的な提案や発信
- ・ 子どもたちに主体的に考えられるテーマを与えて、考え、アウトプットしてもらい、それを地域全体で認められる事業を行いたい
- ・ 子どもとともに考えて、学校や地域をよりよくしていく取組を広げていきたい。これまでの取組を活かしながら、課題解決に向けて進むことができる活動を実践したいです。
- ・ 自分の学校で実施したいことは、まず行事の見直し、授業改善を行いたいと思います。地域で実践したいことは、学校の活動を呼びかけ、地域の方と協働することです。そこから、安全体制を整えていきたいです。最後に検討したいことは、自分たちの学校で行われているガイド学習を今日の活動取り組みで説明されていたものに寄せて見るように検討し、自己肯定感の涵養や主体的に学習に取り組む態度を育成したいと思いました。
- ・ 子どもたち自身から何かを発信する取り組みがもっと出来れば良いと思った。生徒会の取り組みなど「先輩らもやっていたから」ではなく、「なぜ今年度もそれをするのか」をしっかりと考えて発信出来るようになっていくと良いなと思う。
- ・ 非認知能力の育成。昨年度よりエデュパスを導入し、実践にとりかかっているが、ISSの考えをミックスしてやれないかと思った。
- ・ なんのために取り組むのか、どんな効果があるのか、すべての教育活動に子どもたちとともに考え、意味づけを行いたい。また、学校の取組を保護者や地域に子ども自身が発信する場を多く設定し、子どもたちに自信をつけたい。
- ・ 今、教育委員会が指導主事として、様々な研修を行ったり、市としての取組を考えたりしていく中で、今すでにやっていることも含めてその目的や価値を確認して、自分自身も納得して進めていくことが大切だと感じた。今日の教えていただいた中にもあった言葉で『それが子どもたちの安全安心につながるなら誰も否定しないか』まさにそうで、子どもたちのためにつながるとなればその取組は続けていきたいと思うし、積極的に行動しようと思う。ただ時間は無限にあるわけではないので、何が今鳥羽市として必要なのか考えて取組をすすめていきたい。
- ・ 子どもの主体的な取組に学校運営協議会として積極的に関わっていく。子どもと意見交流をし、共に考えていく場を設定していく。「安心・安全な学校づくり」という部分での連携を考えていく。
- ・ 安全・安心な学校づくりに向けて、安全診断を本校の担当者とともに進め、子どもが主体的に取り組みができるようにしていきたい。また、子どもの自己肯定感を向上させるためにも、子どもが学んだ事等を発信できる場の設定を職員と共に模索していきたい。
- ・ 自分やその周りのこととして、主体的に考えてもらえるように工夫すること。
- ・ データに基づく分析や検証は社会科をはじめ授業でも必要な能力であり、子どもが主体となって取り組みやすいのではないかと感じた。そのためには日頃からデータやグラフの読み取りに慣れさせる必要があるため、より長期的な計画で実践していく必要があると感じた。
- ・
- ・ 子どもたちの実践や学びをもっと地域の大人へ発信⇒大人の意識を変えたい⇒地域への愛着が強くなる⇒未来の答志島を切り拓く力がつく。学校運営協議会の運営を学校まかせにせず、もっと関わってきたい。
- ・ 事項の安心・安全の課題を子どもたちと共に見つけ出して解決策を考えること。●今ある学校行事・活動を意味づけですすめていくこと●職員と子どもの対話は生み出すことは容易だが、地域の方々の想いをくみとる方法がむずかしい。教職員と地域の多様な方とのコミュニケーション力の向上
- ・ ●地域の人はわりと協力的で子ども、地域、先生など、協働していく基盤はあると思うので、それを生かしながすすめていく。●毎年続けている行事や活動があるので、再評価などしていきたい。●安全診断をしてデータ化することで、根拠、具体性を持って、子どもが主体的に取り組めるようにしたい。

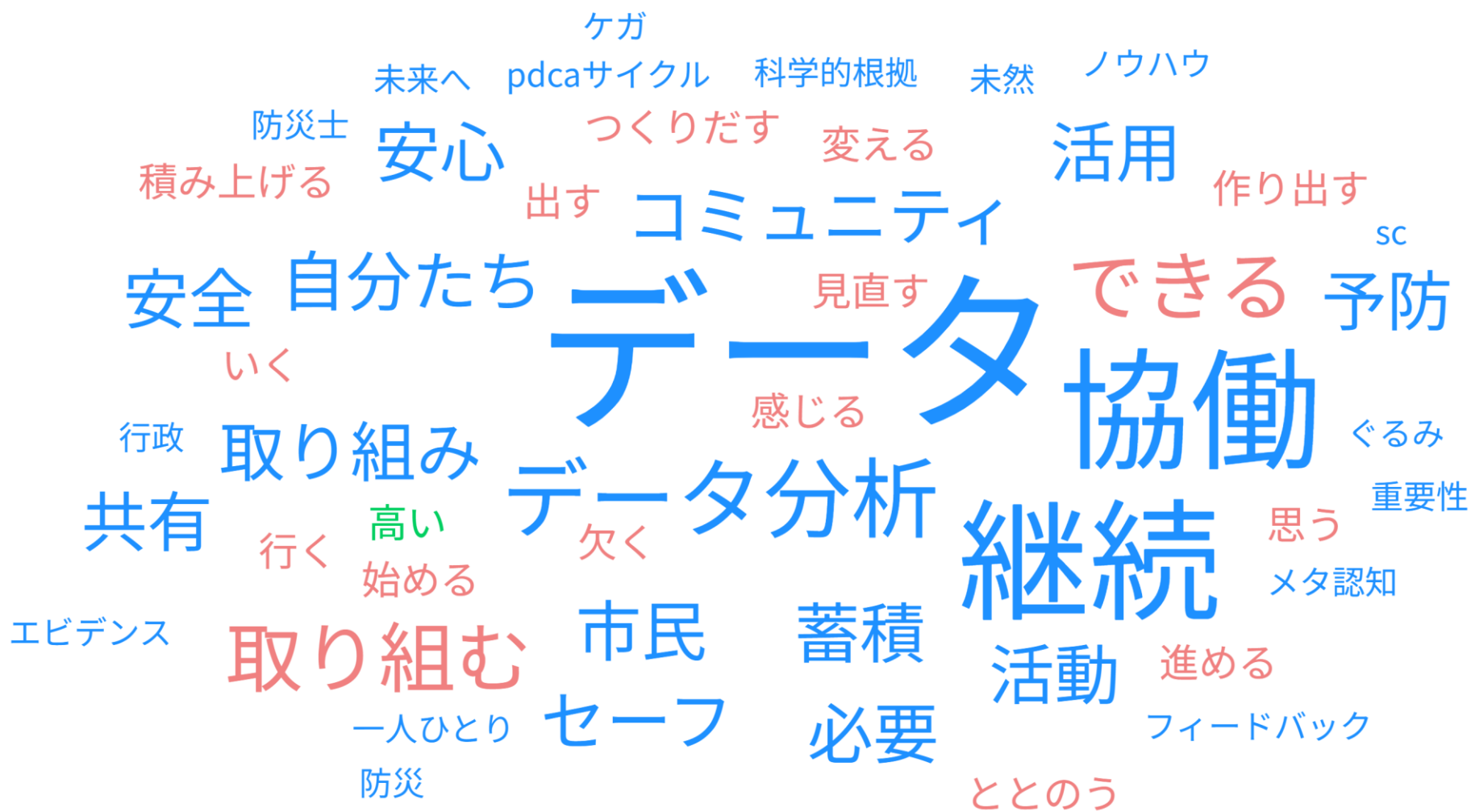
その他感想

- ・ 審査風景とか、映像資料ありましたら見てみたいです【CS】。
- ・ 良い発言ばかりで感動しました【CS】
- ・ たいへん内容の充実した研修で、有意義な時間を過ごすことができました。学校に戻り、自分自身もう一度内容を振り返るとともに、職員にもしっかり還流したいと思います。
- ・ I S Sという新しい指標を用いることで学校組織の共通した見方が職員でできて方向性が示せるかと思いました。
- ・ 松原市教育委員会の方の話が大変熱意があり理解しやすかった。
- ・ 1日目とても充実した研修となりました。ありがとうございます。明日もよろしくお願いします。
- ・ 今日セーフスクール話を聞いて、明日のセーフコミュニティの研修が楽しみになりました
- ・ 白石先生と長尾課長のお話を続けて聞いたことで、ISSの意義と実践や取組内容についてとてもわかりやすかったです。
- ・ 大変有意義な研修でした。今回、ISSについては初めて知った制度で、子供たちが取り組むにはとても良い仕組みだと感じた。「安心安全」の軸以外の評価制度(認証制度)などが存在するのか、少し調査してみたくなりました。このような機会を頂きありがとうございました【CS】。
- ・ ISSは、取り組むことは難しいのかなと感じていました。しかし、新しいことよりも今あるものを活用してなんとなくやるではなく、明確な数字やデータを基に考える活動を行えば良いと学んだので簡潔に取り入れられるところは自分の教育に取り入れていきたいなと思いました。私は管理職ではありませんが、非常に自分のためになる研修でした。
- ・ わかりやすい説明で、あっという間に時間が過ぎました。時間配分は適していると思います。
- ・ 貴重な経験をさせてもらい、ありがとうございます。渋滞がありましたが、研修に影響なく調整いただき、感謝いたします。
- ・ 教員が子どもの安全を確保するのは当然なだけに安全のための取り組みや解決策等を考えていくのも教員の役目であるという認識が強かったので、ISSの取り組みは大きく認識が変わったと感じた。学校づくりが町づくりにつながって地域全体の安全に寄与できるということがわかった。
- ・ 見える化が地域との連携を促し、過ごしやすい学校になると気づいた。時間配分は丁度よかったですし、とても勉強になりました。
- ・ 時間の都合をつけていただいて、ありがとうございました。
- ・ 大津山さん、思いもよらぬ大渋滞で時間調整等、本当にありがとうございます。そして、こんな状況だったにも関わらず、塩タブレットや水分の心配まで至れり尽くせりで感謝します。本日の研修では、しっかり質疑のお時間もいただいていたので良かったです。明日もよろしくお願いします。できることがあれば何でもします。
- ・ 大人数の引率、お疲れ様です。バスの中でマイクを使うのは良いと思います。

亀岡市



【亀岡】本日の研修で得たこと・気づいたことを示すキーワード



【亀岡】本日の研修で得たこと・気づいたことを示すキーワード（分類）

データ分析・エビデンス・科学的根拠

- データ分析
- エビデンスベース 未来への投資 人としての育ち
- セーフコミュニティ、データの蓄積と分析
- SCの取り組みにはデータ収集・蓄積が欠かせず重要である
- データ分析、フィードバック、メタ認知
- 地域連携が必要である事、データ分析の重要性を感じました。
- データの活用
- データの活用は金なり！！【CS】
- 今あるものを見直す。データを積み上げて結論を出す。
- データの蓄積と分析
- データ
- データ
- SCの取り組みにはデータ収集・蓄積が欠かせず重要である【CS】
- データを積み上げて結論を出す。
- データ分析の重要性を感じました【CS】
- 科学的根拠
- データ化【CS】

継続・地道な取り組み

- 地道な活動を継続して取り組んで行くことが大切だと認識しました。
- セーフコミュニティ 継続
- 継続【CS】

協働・地域連携

- 協働・継続
- 町ぐるみのPDCAサイクル、
- 協働
- 協力・協働。
- 市民・行政・団体などが協働で進める【CS】
- 地域連携が必要である事【CS】
- 今あるものを見直す。協力・協働。環境のとなりのえ。ノウハウの共有。
- みんなで取り組もう
- 協働

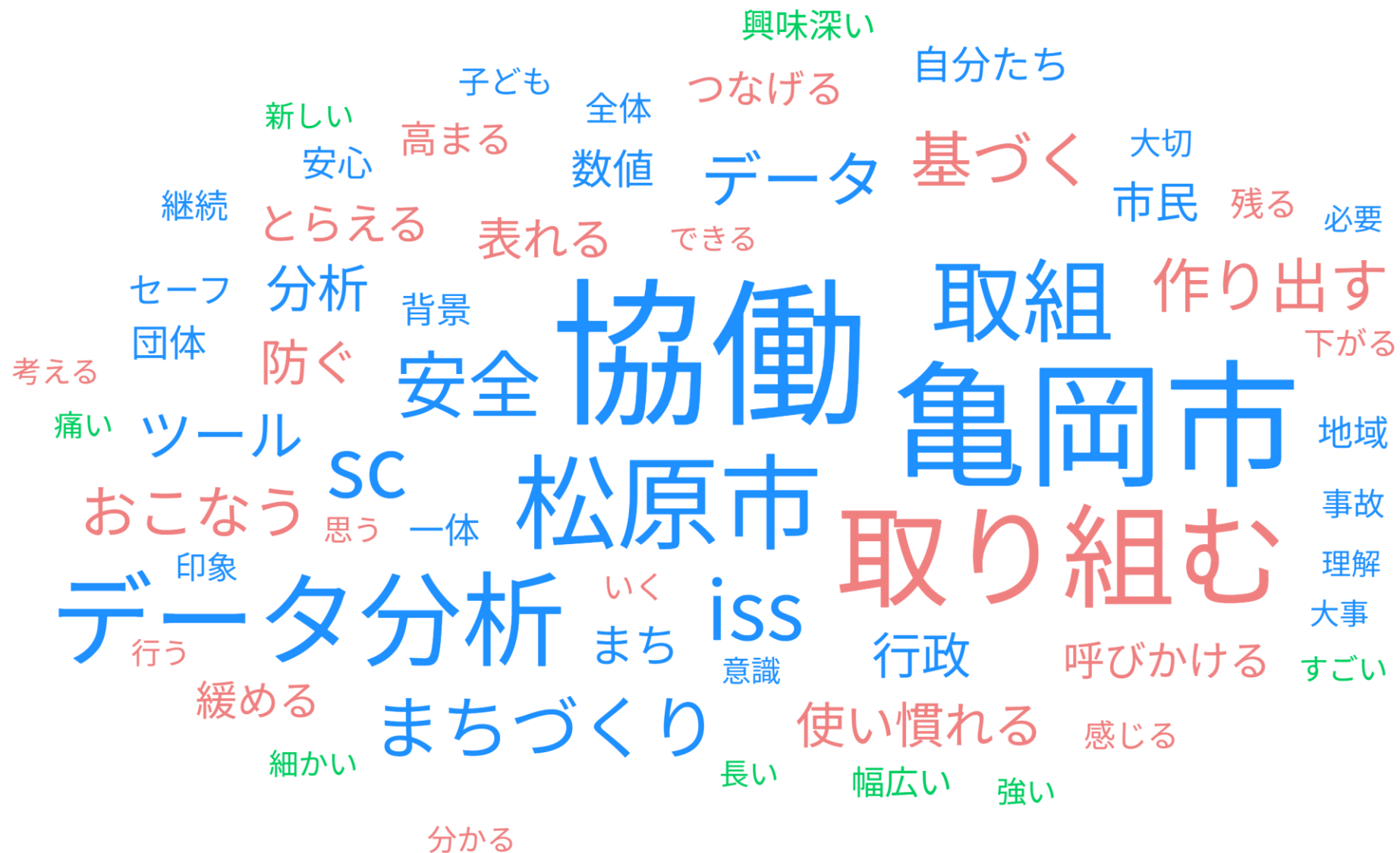
防災・予防・セーフコミュニティ

- 防災、教育、
- セーフコミュニティ
- 予防的取り組み
- 防災士
- 安心安全は自分たちで作り出すもの
- 安心・安全は自分たちで作るもの
- 事故やケガは予防できる。
- 未然防止。
- 市民一人ひとりの意識を変えていくことが必要
- SCは予防的取り組み・持続的取り組み

【亀岡】本日の研修で得たこと・気づいたことを示すキーワード（記入まま）

- 先生と子どもが課題を共有することから始めると、高いモチベーションで活動できるのだらうと思いました。
- 地道な活動を継続して取り組んで行くことが大切だと認識しました。
- 防災、教育、
- データ分析
- 協働・継続・事故やケガは予防できる。科学的根拠、町ぐるみのPDCAサイクル、
- エビデンスベース 未来への投資 人としての育ち
- セーフコミュニティ、データの蓄積と分析
- SCの取り組みにはデータ収集・蓄積が欠かせず重要である
- データ分析、フィードバック、メタ認知
- セーフコミュニティ データ 継続
- 予防的取り組み
- 協働、継続、データ
- 市民・行政・団体などが協働で進める
- ・防災士 ・安心安全は自分たちで作りだすもの
- みんなで取り組もう
- 安心・安全は自分たちで作り出すもの
- 継続
- 地域連携が必要である事、データ分析の重要性を感じました。
- 市民一人ひとりの意識を変えていくことが必要
- 協働
- データの活用
- データの活用は金なり！！
- 今あるものを見直す。データを積み上げて結論を出す。協力・協働。環境のととのえ。未然防止。ノウハウの共有。
- データ化 SCは予防的取り組み・持続的取り組み

【亀岡】本日の研修で新たな知識・認識・印象に残ったこととしてどのようなことがありましたか？



【亀岡】本日の研修で新たな知識・認識・印象に残ったこととしてどのようなことがありますか？

データ分析・科学的根拠

- データ分析して事故や事件など防げることは防ぐようにする。まずはデータを集めることからします。また、未然に防ぐためには、日々の安全点検が大事だと思いました。
- 単なる数値データの解析だけではなく、背景や他の事象との因果関係なども含めた総合的な分析も必要であること【CS】。
- 交通事故の減少したデータを視覚的に表示したり、呼びかけたりすることで市民の意識、地域と協働のきっかけになること。そして事故率が下がったからこのまま下がっていくだろうと慢心して、継続を緩めるのではなく更に出来ることはないかとさまざまな目線からフィードバックを行っていくのさことが大事だと学びました。またデータだけではなく、背景も考えてその現場検証も行うことで理解が深まるため日々の修正は必須だと感じました。ICT機器を用いることでフィードバックの結果を履歴に残しておくことでいろんな目線からさまざまな意見が飛び交い有意義な意見交流に繋がると感じました。
- データを分析し、それに対しての取組アプローチをしていくことの重要性は理解できたが、数値に表れてこない部分の背景を細かく見ていくことも大切だということが印象的だった。これまでもその辺は大切にしていたが、改めてまた再確認できた。
- 安全診断を科学的根拠に基づいて推進し、データの数値だけでなくその背景にあるもの、目に見えない部分を見ていくことも大切である。
- セーフコミュニティをツールとして行政や様々な機関、企業などの協働によってまちづくりを行っていることで、データをもとにした多くの視点をもって分析、実行へとつながられていること。
- 先日の松原市では、ISSの取組について報告があり、今日の亀岡市は、SCの取組についての報告があり、関連性について理解する事ができた。また、亀岡市の交通事故発生件数、刑法犯認知件数の推移がどちらも大幅に減少していることは、データを基にした分析と対策によるものだということが分かった。

セーフコミュニティ・包括的な取組・防災・安全意識

- 子どもの安全安心はみんなの願い、その取組を否定する人はいない
- どの時代にも対応した包括的な取組がみつよう。・SCは共同で安心安全な町をつくるためのツール。
- すでに取り組んでいるものをバラバラではなく、いっしょに地道に継続的にやっていくことが大切。
- 昨日はCSSについて、いろいろ知ることができましたが、本日の研修では町全体での安心安全への取り組みということで、2日間でつながりのある内容でもあり、大変勉強になりました。
- セーフコミュニティの手法で他分野に影響が出ること。
- コーヒーカップ→孫の幸せ→町を変えよう→セーフコミュニティ誕生・日本は安全な国→対策やってるよ！→でもデータ活用からやってみよう！！【CS】
- 認証・認定→名誉のためではない→自分たちのモチベーション→まちが実際によくなる・若い人を取り込む→バラバラでやるのではなく、官民一体でおこなう→データの蓄積【CS】・
- 既存の会議体の利用、セーフコミュニティの運用により様々なデータを共有するためのツールになるのではと可能性を感じました【CS】。

地域・行政・団体との協働

- 答志からは自治会長を含む2人参加してくれているので、学校と地域が協働した取組を考えていきたい。
- それぞれの団体で一つのものを行うのもある意味では効果があるかもしれないが、亀岡市のようにそれぞれの団体で協力して1つのものを取り組んだ方がより効果が得られる。また、松原市と同様に科学的根拠としてデータを重要視していることが分かりました。データに基づくことで振り返りもできる。さらに、基本的に新しいことに取り組むのではなく、3つの観点（環境・規制・教育）から改善向上をはかることが印象に残りました。
- すでに取り組んでいるものをバラバラでなく組織化する。行政まかせでなく、地域や企業団体が一体となり取り組むことで市民全体の意識が高まる。
- 安全の取組は、個人でなく、まち全体ですることが大事なことに、すごく納得しました。バラバラではなく、いろいろな分野、メンバーが協力することで安全を実現できるんですね。
- 地域全体で一体的に取り組むということが印象に残った。今後人口減少による人手不足や予測困難な時代の中で、町ぐるみで協働することが必要だとわかった。
- SCは市民との協働で「安心・安全なまち」を作り出すためのツールである。行政に任せろではなく「安心・安全を自分たちで作出す」という意識の醸成が必要となる【CS】
- 子どもと一緒に考えることの意義が強く印象に残りました。

継続・意識の持続

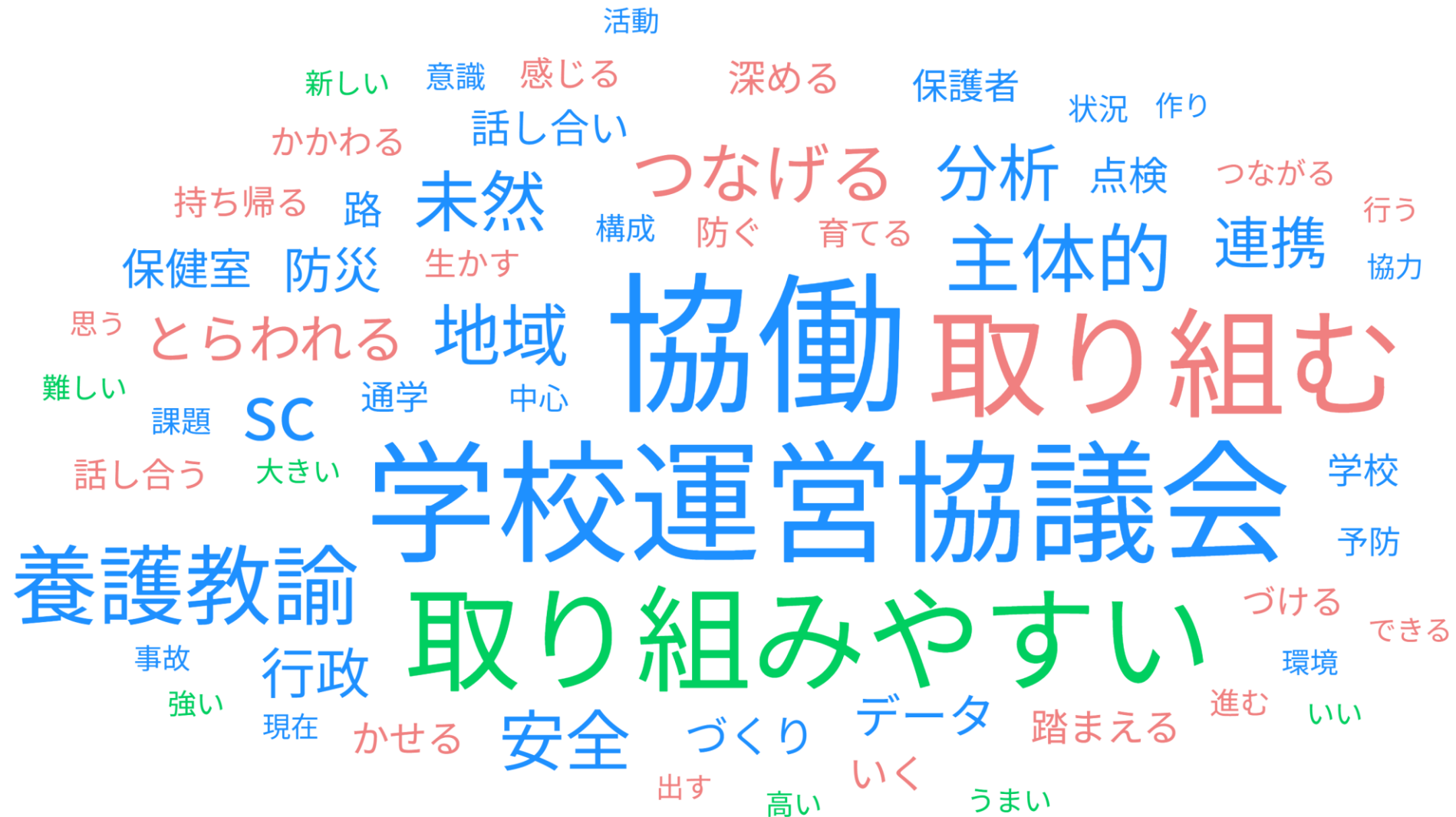
- 物事は諦めずに継続する事が大事な【CS】。
- 交通事故の減少したデータを視覚的に表示したり交通事故の減少したデータを視覚的に表示したり、呼びかけたりすることで市民の意識、地域と協働のきっかけになること。
- 長く継続、工夫して続けていくこと。

- 防災は、自助・共助・公助のバランスが重要であることが分かりました。
- さらに、興味深く感じたことは、小学生が防災士試験に合格していることで、幅広く防災意識が高まっていると感じた。
- 事故やケガを常に予防する観点でとらえる。
- 使い慣れない、道具の使い方を丁寧に教えていくこと
- ヒヤリハットに対する感度をあげる
- 子どものための安心・安全を確実に守ることができる。
- 子どもと一緒に考えることの意義が強く印象に残りました。
- 自分たちのまちのためにISSを活用されているとても実践的なお話を聞かせていただきました。協働で安心安全なまちづくりをするための「ツール」としてのデータ分析だということと、『ケガの件数を減らすことにプレッシャーを感じてお腹が痛くなる子が増えた』という話が特に印象に残っています。
- 人（孫）を思いやる気持ちから始まり広がっていったという、SCの始まりの話が興味深かったです。SCは体とケガへの予防的取り組みの予防的という言葉が印象的でした【CS】

【亀岡】本日の研修で新たな知識・認識・印象に残ったこととしてどのようなことがありますか？（記入まま）

- 答志からは自治会長が2人参加してくれているので、学校と地域が協働した取組を考えていきたい。
- 防災は、自助・共助・公助のバランスが重要であることが分かりました。
- データ分析して事故や事件など防げることは防ぐようにする。まずはデータを集めることからします。また、未然に防ぐためには、日々の安全点検が大事だと思いました。
- それぞれの団体で一つのものを行うのもある意味では効果があるかもしれないが、亀岡市のようにそれぞれの団体で協力して1つのものを取り組んだ方がより効果が得られる。また、松原市と同様に科学的根拠としてデータを重要視していることが分かりました。データに基づくことで振り返りもできる。さらに、基本的に新しいことに取り組むのではなく、3つの観点（環境・規制・教育）から改善向上をはかることが印象に残りました。
- すでに取り組んでいるものをバラバラでなく組織化する。行政まかせでなく、地域や企業団体が一体となり取り組むことで市民全体の意識が高まる。
- 先日の松原市では、ISSの取組みについて報告があり、今日の亀岡市は、SCの取組みについての報告があり、関連性について理解する事ができた。また、亀岡市の交通事故発生件数、刑法犯認知件数の推移がどちらも大幅に減少していることは、データを基にした分析と対策によるものだということが分かった。さらに、興味深く感じたことは、小学生が防災士試験に合格していることで、幅広く防災意識が高まっていると感じた。
- 単なる数値データの解析だけではなく、背景や他の事象との因果関係なども含めた総合的な分析も必要であること。
- 交通事故の減少したデータを視覚的に表示したり、呼びかけたりすることで市民の意識、地域と協働のきっかけになること。そして事故率が下がったからこのまま下がっていくだろうと慢心して、継続を緩めるのではなく更に出来ることはないかとさまざまな目線からフィードバックを行っていくのさことが大事だと学びました。またデータだけではなく、背景も考えてその現場検証も行うことで理解が深まるため日々の修正は必須だと感じました。ICT機器を用いることでフィードバックの結果を履歴に残しておくことでいろんな目線からさまざまな意見が飛び交い有意義な意見交流に繋がると感じました。
- 安全の取組は、個人でなく、まち全体ですることが大事なことに、すぐく納得しました。バラバラではなく、いろいろな分野、メンバーが協力することで安全を実現できるんですね。
- 地域全体で一体的に取り組むということが印象に残った。今後人口減少による人手不足や予測困難な時代の中で、町ぐるみで協働することが必要だとわかった。
- データを分析し、それに対しての取組アプローチをしていくことの重要性は理解できたが、数値に表れてこない部分の背景を細かく見ていくことも大切だということが印象的だった。これまでもその辺は大切にしてきたが、改めてまた再確認できた。
- SCは市民との協働で「安心・安全なまち」を作り出すためのツールである。行政に任せるのではなく「安心・安全を自分たちで作り出す」という意識の醸成が必要となる。安全診断を科学的根拠に基づいて推進し、データの数値だけでなくその背景にあるもの、目に見えない部分を見ていくことも大切である。"
- どの時代にも対応した包括的な取組がみつよう。・SCは共同で安心安全な町をつくるためのツール。・すでに取り組んでいるものをバラバラではなく、いっしょに地道に継続的にやっていくことが大切。 "
- 昨日はCSSについて、いろいろ知ることができましたが、本日の研修では町全体での安心安全への取り込みということで、2日間でつながりのある内容でもあり、大変勉強になりました。
- "自分たちのまちのためにISSを活用されているとても実践的なお話を聞かせていただきました。協働で安心安全なまちづくりをするための「ツール」としてのデータ分析だということと、『ケガの件数を減らすことにプレッシャーを感じてお腹が痛くなる子が増えた』という話が特に印象に残っています。"
- 物事は諦めずに継続する事が大事な
- 既存の会議体の利用、セーフコミュニティの運用により様々なデータを共有するためのツールになるのではと可能性を感じました。
- セーフコミュニティをツールとして行政や様々な機関、企業などの協働によってまちづくりを行っていることで、データをもとにした多くの視点をもって分析、実行へとつながられていること。
- 子どもの安全安心はみんなの願い、その取組を否定する人はいない
- セーフコミュニティの手法で他分野に影響が出るということ
- コーヒーカップ→孫の幸せ→町を変えよう→セーフコミュニティ誕生・日本は安全な国→対策やってるよ！→でもデータ活用からやってみよう！！・認証・認定→名誉のためではない→自分たちのモチベーション→まちが実際によくなる・若い人を取り込む→バラバラでやるのではなく、官民一体でおこなう→データの蓄積"
- 事故やケガを常に予防する観点でとらえる。・長く継続、工夫して続けていくこと・使い慣れない、道具の使い方を丁寧に教えていくこと・ヒヤリハットに対する感度をあげる・子どものための安心・安全を確実に守ることができる

【亀岡】自分の学校・地域で実践したい・検討したいと思ったこと



【亀岡】自分の学校・地域で実践したい・検討したいと思ったこと

データ活用・分析・フィードバック

- これまでの会議や打ち合わせの際に、根拠となるデータを用意してきたつもりですが、一層意識してみたいと思いました。
- 保健室の来室状況や校内のけがの状況をデータ化し、分析して、児童会を中心に主体的に安全・安心な学校づくりに取り組んで行きたい、
- 養護教諭と連携してデータ分析から始め、未然対策をします。安全点検を担当者を複数にして多くの目で未然に防ぎます。
- 自分の地域では、まずデータの分析から始める。また、この研修で得たことを持ち帰り他の教職員や保護者、地域と連携して何か1つ重点課題のようなものを設定していく。新しいものにとらわれることなく、現在のあるものを改善する。
- まずは、安全診断として、保健室の来室状況をしっかり把握し、学校全体で、課題等について見つめ直し、課題解決に向けてできる事を進めていきたい。また、学校運営協議会との連携深め、安全安心な地域・学校環境を構築していきたい。
- ICTでのフィードバック展開、現在過去のデータ揭示。
- データを集めて分析することは、事故やケガの予防はもちろん、様々なことにも活かせると思います。数字で見えること、気付いたことを、養護教諭や一部の人に頼るのではなく、声に出していこうと思います。
- 通学路分析と、津波高のデータを出し、子ども達の安全な通学路や、遊び場所避難経路の確認をしたい【CS】。
- データによる分析。
- データの数値化・見える化に取り組みたい【CS】。
- 安全点検（写真入りの表で）→修繕につなげる。見る目（安全に対する）を育てる（職員の）。関係団体の構成する方々の年齢構成、入れ替わりの難しさ（高齢化）。体験活動の際の丁寧な防災・防犯シミュレーションをすること。すぐに安全管理につなげたい場合でも、連携がうまくいかないことがある。
- データ化することにより、それに基づいて考察し、振り返りができるので、データ化を取り入れてみたい。・松原市の時も感じましたが、新しいことを始めるのは大変だけれど、今していることをバラバラではなく、一緒に活動を進めていくことはできそうだな、と思いました。・安心・安全は自分たちで作りだすもの、というお話があり、実践できたらと思います【CS】。

地域・家庭・行政との協働

- 普段から地域や家庭で話し合っておくことが防災につながると感じたのでこれを実践していきたいです。
- 神島を含めた離島山間地域では、人口が減少して住民が協働せざるを得なかったり、活動の中心が高齢化して将来的な持続性が不透明になっている場合もあると感じる。行政、学校、警察などが協働してできることは何か、将来的に継続できそうかなども踏まえて検討していく必要があると感じた。
- 学校と地域の協働がより進むような手立て、働きかけをしていく。課題を自分ごととして考えることできるように意識づけをしていく【CS】。
- 自転車のヘルメット購入補助を行政にお願いしたい。
- みんなで取り組むことについて、本校は保護者地域との連携が強い方なので、みんなでひとつのことに取り組みやすいと思います。実際に地域の人による街づくり委員会が毎年開催され、町の安全について活発な話し合いがなされています。行政との金銭的な問題が大きいですが、学校もいっしょになって取り組んでいきたいです。
- 学校と地域が一体のなってもっとやりたい事を話し合い行動する【CS】。

学校運営・組織的取組

- やはり、人を育てる・未来への投資という部分で学校の役割が大きいと感じました。環境面やルール作りと共に、子どもの時期から人材育成をしていく大切さを改めて感じました。これまでの取り組みの意味づけをし、地域の協力のもと、さらに意識の高い生徒を育成したいと思います。
- 危険予知や事故予防のためのワーキンググループ作りを行いたい【CS】。
- SCのやり方、考え方を少し日常業務に入れられるといいな。
- キーワードにも書いたが、同じ目的に向かって同じ方向で進んでいくことの大切さを改めて実感した。そして、そのためには協働して取り組んでいけるような仕組みをつくっていくことも必要。今あるものを生かして、見直していくこともしたい。
- 学校運営協議会と学校との協力はもちろんのこと、子どもたちが主体的にかかわる形での学校づくりやまちづくりを行っていく必要性を改めて感じました。
- 既存の取組をSCの3つの視点から進化させる。

その他感想

- 鳥羽市に取り入れるとしたら…というテーマでグループ討議を行い、そこで湧き上がった疑問を質問できたらよいのではないかと思います。
 - マイクがなかったので、少し聞こえにくい時がありました。
 - 視察研修なので、お話もいいんですが、現場をもっと回ったり、どこをどう変えたなどのISSの取り組みを生で見たりする時間をもっと増やして欲しいなと思います。写真やお話だけならオンデマンドでも、なんとでもなるなと思ってしまいました。現場を見にいきながら協議を行うなどの方が効率的で現実的かなと思いました。
 - 2日目に関しては、個人的に1時間半ぐらいで小休憩で、トイレタイムが欲しかったです。
-
- ありがとうございました。今やっていることの振り返りを分析しやすいようにしたり、子どもたちからの意見も取り入れながらより良いものにしていきます。
 - 2日間ありがとうございました。とても充実した研修となりました。
 - 二日間の研修の感想になります。一日目に引き続き、エビデンス（数値に表れるもの、表れないもの）をベースにして、取り組んできたことの意味づけ・価値づけを行うことが大切だと学びました。エビデンスも踏まえて、これまでの取組を振り返りたいと思います。今年度、市指定の研究発表会で、地域とともに取り組んできた防災減災の取組を発表します。発表するにあたり、これまでの取組の意味や価値を改めて整理したいと思います。
 - 事故現場を訪問できたことで、悲惨さを実感でき、今回の研修の意義も合わせて感じられました
 - 新しい概念を学べ、有意義でした。ありがとうございます。防災など学校や地域と一緒にできることを話し合いながら、少しずつ進めたい。
 - 大変良い勉強になりました。スムーズに進んで良かったと思います。
 - 実際に取組を進めている自治体に行き、直接話を聞いたことで多くの学びがありました。準備から当日の動きまで大津山さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。
 - まちづくりは人づくりと言われるが、SCを活用して町を育てる具体的なお話を聞かせて頂きたいへん勉強になりました。2日間、ありがとうございました。
 - シードのスタッフの皆さんありがとうございました。いろいろ勉強になりました。学校運営協議会との外部のリンクがこれから必要かと思います。世界と地域がつながるような取り組みが大切かと思います。鳥羽市も外国人住民が増えてきているので、これから生きる子ども達にいろんな事を考えさせてあげたいと思います。嵐山のインバウンドの状態を見てたりますますそう思いました。
 - 本日も大津山さんのお心遣いに感動しました。いつもありがとうございます。
 - 2日間、ありがとうございました。早退させてもらい、申し訳ありませんでした。

アンケート結果からの考察

■本研修を通じて、以下のポイントを参加者が獲得していることが確認された。

①データ活用と安全診断の重要性

アンケート結果から、根拠に基づいた安全づくりの重要性が多数のコメントから確認できた。保健室の来室状況や校内でのケガ、通学路や津波高のデータを含め、日常的に得られる情報を数値化・可視化し、児童会/生徒会や教職員と共有していくことで主体的な活動を促し、環境的な変化を生み出すことが挙げられている。

また、データ分析においては数値だけではなく、背景や因果関係を読み解くことの重要性の他、ICTを活用してデータ取得の負担を小さくすることやフィードバックを履歴化する工夫の有効性も確認されている。

このようにデータ取得と活用が事故やけがの未然防止だけでなく、学校づくり全体の改善に役立つ「ツール」であることが参加者の感想から確認できた。

アンケート結果からの考察

②子どもの主体性と人材育成

アンケート結果から、児童会や各委員会が主体的に安全診断や身近なところから課題解決に関わる実践は、単に安全対策にとどまらず、自己肯定感・主体性・発信力といった非認知能力の向上につながることに共感・賛同するコメントも多くみられた。

③学校・地域・行政・団体との協働

学校は未来のまちの担い手となる人材育成の場であることの認識の下、協働的な取り組みの重要性が確認されている。学校と地域の連携強化（学校運営協議会の機能強化）や官民一体のより包括的・組織的に安全を向けて協働していく仕組みの可能性（ワーキンググループなど）を検討したいというコメントも多く確認されている。既存の組織・機能・活動を含め、**既存の取り組みの再評価・価値づけ・見直し**への意欲がコメントで確認できる。

ご参加・ご回答をありがとうございました！

皆様、研修おつかれさまでした！

SEEDS Asiaができることは、情報の提供やお手伝いにすぎません。
今回の研修を通して、「実践してみたい・検討してみたい」と思ったことを、是非各校・各地域で話し合い、取り組みを進めていただけると幸いです。

みなさまの変化や実践こそが、研修の成果です。
「これやってみるわ！」「こんなふうに変ったで～！」ということがあれば、是非教えてください😊